

社会の要請に応える

技工団 (山口)

つなぐ
70周年の
誇り

山口新聞創立70周年企画

美祢市の石灰石鉱山での採掘業務



山口市緑町にある技工団の本社



作間悦次社長

かつて南満州鉄道の技術者だった作間正朝氏が終戦翌年、日本へ引き揚げた仕事仲間と会社の基となる組織を結成した。鉄道建設の技術を生かして建設業に参入し、法人化を経て徐々に事業の幅を広げ、土木・建築の設計、施工、維持管理や、石灰石鉱山の採掘などを手掛けている。

かつて南満州鉄道の技術者だった作間正朝氏が終戦翌年、日本へ引き揚げた仕事仲間と会社の基となる組織を結成した。鉄道建設の技術を生かして建設業に参入し、法人化を経て徐々に事業の幅を広げ、土木・建築の設計、施工、維持管理や、石灰石鉱山の採掘などを手掛けている。

現社長の作間悦次氏(61)が入社したのは、バブル期のさなかにあった1988年。営業、事務方として働き、2008年に3代目社

長に就任した。入社当時、国内の建設投資額は80兆円を超えていたが、現在はその半分程度。「業界にとって暗い時代が続く、難儀だ」と思う。社長就任は「リーマン・ショックの年で大変だったが、やるしかない姿に向かって普通にやっていくだけ」と話す。

「自然体です、技工団。」を基本理念に、これからも時代の流れとともに変化する社会からの要請に応える姿勢を貫いていく。

(随時掲載)



【創業年月日】1946(昭和21)年5月5日

【所在地】山口市緑町6の13

【社長】作間悦次

【沿革】1946年5月 創業▽48年3月 新日本技工団として会社設立▽50年10月 広島営業所(現在の広島支店)開設▽52年5月 技工団に商号変更

【資本金】5千万円

【社員数】約120人

下関市景観審議会 総二会長、15人
29日、市役所など
前田建設工業(市
市安岡沖に建設を
いる洋上風力発電
いて、委員が市景
基づく景観形成の
意見を交わした。
も中尾友昭市長
る。

風車の高さが約
と基準を超えるた
は景観法に基づ
画を市に届け出
観計画では、風車
定地を含むエリア

洋上風力
景観審、意

下関市、9



「米軍への提供施設として建
29日、行われた。現在、施設
治会の関係者らが中国四国「スポーツ施設」になるとさ